

# 施工 地球温暖化防止の取り組み

## 施工段階でのCO<sub>2</sub>削減

### CO<sub>2</sub>排出量

施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量削減のため、各作業所でのアイドリングストップ運転及び建設機械・車両の適正整備の励行等を行っています。

2017年度のCO<sub>2</sub>排出量原単位は、10.53t-CO<sub>2</sub>/ 億円でした。2016年度と比較して、0.1t-CO<sub>2</sub>/ 億円(0.9%)増加しました。

### CO<sub>2</sub>排出量の推移



### 産業廃棄物処分会社指定制度によるCO<sub>2</sub>の削減

建設作業所で発生する産業廃棄物は、品目ごと（木くず、廃プラスチック類、混合廃棄物等）に分別し、指定会社で処分を行っています。その中で混合廃棄物は、かなり削減されたものの現場の着工から竣工までの長い期間にわたって発生しています。

東京地区は指定6社12工場、関西地区は指定7社9工場の中から現場に近い処分会社を選定し、廃棄物の運搬距離を短縮することにより、収集運搬効率が向上、CO<sub>2</sub>の削減につなげています。

### 建設発生土の場内有効利用によるCO<sub>2</sub>の削減

建設作業所で排出するCO<sub>2</sub>のうち、約90%近くが軽油利用に起因するものであることから、軽油使用量の低減がCO<sub>2</sub>削減に大きく影響します。

近年は土砂埋立て事業場までの遠距離化により、土砂運搬におけるCO<sub>2</sub>の発生も増加する傾向にあります。

建設作業所では、掘削工事から発生する土砂を場内埋戻し土としてできるだけ利用することにより、場外搬出ダンプ台数

を低減し、CO<sub>2</sub>削減を図っています。

また、場外に搬出された建設残土の大半は埋立て処分されたり、埋立てによる森林破壊の原因になります。残土の搬出量を減らすことで、森林保護にもつなげていきます。

### 「オハナ町田オークコート」新築工事（東京地区）

根伐り工事で発生した掘削土砂10,440m<sup>3</sup>のうち約1,270m<sup>3</sup>を場内にストック。仮置きの中もシート養生による粉じんの飛散防止対策を確実に行い、工事進捗に応じ順次埋戻しを利用しました。土砂の場内有効利用により搬出ダンプ数を少なくでき、約12t-CO<sub>2</sub>の削減を達成しました。



飛散防止対策の状況

### 「メガシティテラス」新築工事（東海地区）

根伐り工事で発生した掘削残土を場内に仮置きし、基礎埋戻しに転用しました（埋戻し完了後、余剰分を搬出）。1期、2期工事合わせて約3,700m<sup>3</sup>の土を転用。場外への搬出車両、埋戻し土の搬入車両の削減により、約23t-CO<sub>2</sub>の削減を達成しました。



埋戻しが完了し残土（場内堆積分）を搬出する前の状況



掘削残土の場内堆積状況

## 大規模修繕工事でのCO<sub>2</sub>排出量の把握

長谷エリフォームでは、大規模修繕工事作業所でのCO<sub>2</sub>排出量を計測し、受注金額5千万円以上の完工した100現場（東京58現場・関西42現場）における総CO<sub>2</sub>排出量は、130.09tと前年度比34.1%の減少となりました。また、原単位当たりでは、5千万円以下の物件が増え、該当物件数が減り、超高層マンション及び移動昇降式足場等、電気使用量・

軽油使用量等が例年程度に減少したことによる影響もあり、原単位も0.75t-CO<sub>2</sub>と前期比43%の減少となりました。

ISO14001の導入から4年が経ち、また2015年度版への移行を契機に、改めて協力会社を含め産業廃棄物分別の現場の管理意識、環境活動・省エネルギー意識の向上に力を入れ、さらなるCO<sub>2</sub>削減に取り組みます。

### CO<sub>2</sub>排出量把握（請負金額は当該現場分の合計）

全社	2014年度（123現場）		2015年度（116現場）		2016年度（124現場）		2017年度（100現場）	
	総量	CO <sub>2</sub> 排出量						
電力使用量	165,116kWh	57.15t-CO <sub>2</sub>	273,834kWh	91.89t-CO <sub>2</sub>	371,488kWh	128.38t-CO <sub>2</sub>	227,736kWh	84.49t-CO <sub>2</sub>
軽油使用量	22,890ℓ	68.75t-CO <sub>2</sub>	19,121ℓ	50.56t-CO <sub>2</sub>	47,007ℓ	124.3t-CO <sub>2</sub>	17,246ℓ	45.6t-CO <sub>2</sub>
廃棄物排出	2,354t		2,759t		1,889t		2,020t	
総CO <sub>2</sub>		125.90t-CO <sub>2</sub>		142.45t-CO <sub>2</sub>		252.68t-CO <sub>2</sub>		130.09t-CO <sub>2</sub>
請負金額	225.47億円		195.0億円		191.16億円		171.28億円	
原単位	0.55t-CO <sub>2</sub> /億円		0.73t-CO <sub>2</sub> /億円		1.32t-CO <sub>2</sub> /億円		0.75t-CO <sub>2</sub> /億円	

## 「COOL CHOICE」に賛同登録しました

2017年9月、長谷工グループは、環境省が推進する国民運動「COOL CHOICE」に賛同登録しました。

グループ内で、地球温暖化防止対策の「賢い選択」をするための情報発信を行い、社員一人ひとりが身近な生活の中でアクションを選択できるようになることを目指しています。

### 「COOL CHOICE」とは



未来の  
ために、  
いま選ぼう。

日本が国として掲げる「2030年に温室効果ガス排出量を26%削減（2013年度比）」という目標を達成するために、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に貢献するあらゆる「賢い選択（=COOL CHOICE）」をしていくこうという取り組みです。

### グループ社員に推奨している取り組み・アクション

- ① 低炭素製品への買い替え
  - LED、エアコン、冷蔵庫、エコカーなどの省エネ製品
  - 高効率給湯器、節水型トイレ
  - 高断熱高気密住宅の新築、リフォーム
- ② 低炭素サービスの選択
  - 公共交通
  - カーシェアリング
  - 低炭素物流サービス
  - スマートメーターによる見える化
- ③ 低炭素なライフスタイルへの転換
  - クールビズ、ウォームビズ
  - クールシェア、ウォームシェア
  - エコドライブ、自転車の利用
  - 森、里、川、海の保全活用

出典：環境省COOL CHOICE Webサイトより  
<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/>